天保十一年
子十一月吉日
養蠶仰渡
被仰渡御請印形帳
山梨郡
西青沼村

支配所医師共江申聞候

医ハ仁術与歟承り及候、病家之貧福不抱唯々病越いやし候義第一ニ可心得義与存候、然に医師共之内、貧家之病人ハ療治頼越候而も、薬不与、又ハ劣り候薬品を与へ、富家江ハ上品を用ひ候故貧者ハ病を得るといへとも、全快ニも至ら須、落命い堂し候哉ニ相聞、第一仁術を直に取行候其意にも背ケ、不人情之至り候、以来富家ハ不及申

貧者に而薬礼等薄可るべくと存候共、右等鄙劣之存意相止、貧者之病人を却而厚く手宛いたし病をいやし候義、専ニ心得候様可相心掛候、右之趣、医業いたし候もの共得其意承知印形書付可差出候、右躰相達候、已後心得違前文ニ振候取計有之ニおいてハ、村々取締役より当人共江急度為申聞、品ニ寄封書を以可申立候

子十月

被仰渡

蚕業之儀ハ耕作ニ差続農家専要之義、殊ニ古書ニ海なき国ニハ専一ニ可稼分ニ有之、勿論場所ニ寄寒地之分ハ麦作取入時節之落合差支有之哉、其外ハ所之鎮守嫌ハれ候抔承違ひを以、村里之助ニ相成候義を乍存、其儘ニ打過候義も有之、其分ハ疑念相晴取計遣し候ケ所茂有之、然ル上ハ桑さへ植付置候得ハ、虚弱ニ而充分農中成兼候老人子供之手

業ニハ一廉強ミニ可相成哉ニ付、是まて手馴さるものハ劫者成
ものニ承り合、前文之趣無疑念蚕業可相励候様存候、
右之趣村々江不洩様相達度存候事、
右之趣被仰渡承知奉畏候、依之御請印形奉差上候、以上
子十月

山梨郡西青沼村

名主
清右衛門
九兵衛
太郎兵衛
佐　助
勘兵衛
喜　助

松坂三郎左衛門様御役所

源蔵
良蔵
吉蔵
五兵衛
伊右衛門
林平
文蔵
三之丞

前々之通長百姓太郎兵衛江被仰付罷在候処同人義病心ニ付長百
姓役并取締役共退役御願済ニ相承候後私右取締役被仰付承知奉
畏候間村内一同より連印為致差上申處相違無御座候已上

山梨郡西青沼村

亥　　名主

十一月十日　　清右エ門